

新環政 2・5・5
令和 4 年 2 月 1 4 日

愛知県知事 大村 秀章 様

新城市長 下 江 洋 様



(仮称) 新城・設楽風力発電事業計画段階環境配慮書に対する意見について (回答)

令和 4 年 1 月 1 8 日付 3 環活第 4 8 9 号で照会がありましたこのことについて、別紙のとおり回答します。

担当：新城市 市民環境部 環境政策課
環境政策係

TEL 0536-23-7690

FAX 0536-23-7047

E-mail e-seisaku@city.shinshiro.lg.jp

(仮称) 新城・設楽風力発電事業計画段階環境配慮書に関する意見

1 配置等に係る複数案の提示について

事業実施想定区域における複数案の設定について、P17で「一方、現時点では～『配置・構造に関する複数案』は設定しなかった」とあるが、地域住民等が最も不安に思うことは騒音、振動、低周波音等による環境影響と思われる。当該風力発電事業計画近傍に居住している住民が受けうる生活環境等への影響の可能性をイメージできるように少なくとも方法書の手続段階では、設備の配置、構造等を特定した上で複数案を提示しつつ、その環境影響に係る調査を検討すること。

2 風力発電機について

災害等による影響を検討する際には過去の災害事例データだけでなく、これまでにない規模の災害が起きる可能性も想定し、気候変動研究の専門家等の意見を聴取した上で工事計画、設備の構造等を検討すること。

3 内水面漁業等の下流域について

内水面漁業等の下流域への影響について配慮し、各漁業組合(寒狭川中部、巴川、三河湖)、矢作川沿岸水質保全対策協議会に事前に事業を説明すること。

4 水質汚濁について

当該風力発電事業計画の実施場所近くに菅沼川があり、菅沼川下流には水道水源がある。樹木伐採や工事又は設備稼働時に菅沼川への濁水流出が懸念されるので、濁水が流出しないように対策を講じること。

5 新城市の環境保全に係る計画について

新城市の地球温暖化対策に係る施策及び目標について、本事業は民間企業が実施することが想定されているため、新城市の事務事業について定めた「新城市地球温暖化防止実行計画(第3次計画)」ではなく、新城市の行政区域全体の温暖化対策施策と目標を定めた「第2次新城市環境基本計画」に包含する「新城市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を記載することが望ましい。なお、新城市では国の温室効果ガス削減目標の引き上げに合わせて目標の改定を検討しているため、方法書以降については、その最新状況について留意すること。

6 「新城市省エネルギー及び再生可能エネルギー推進条例」について

「新城市省エネルギー及び再生可能エネルギー推進条例」の基本理念に沿うように事業を検討し、早い段階から地域とのコミュニケーションを図り、地域の発展に資する要望等に対して真摯に対応すること。

7 事業計画による影響について

同規模、同規格、同条件による比較は難しいかもしれないが、データだけでなく、参考事例も取り入れ、可能な限り風力発電設備建設の影響について、イメージできるように工夫して示すこと。

8 計画段階配慮事項として選定する項目のうち工事の実施について

「発電所アセス省令」では建設機械の稼働について、振動が該当しないとされているが、特定建設作業に該当する場合もあるため、方法書以降では振動も配慮事項として選定すること。

9 新都市風力発電施設等の建設等に係るガイドラインの環境影響評価項目について

「新都市風力発電施設等の建設等に関するガイドライン」に係る広告物、光害、文化財、建設工事作業による影響等についても方法書作成以前の早い段階で評価方法、項目、参考となる基準等を整理すること。

10 工事の実施に係る項目について

方法書以降の作成にあたり、風力発電設備本体だけでなく、周辺の整地や取付道路等の建設によって変化した環境が風力発電稼働後にどのように影響を与えるかについても検討すること。

11 「人と自然とのふれあい活動の場」について

P160 第 4.1-3 表「計画段階配慮事項として選定しない理由」において、人と自然とのふれあい活動の場を選定しないとしているが、事業想定区域には「竜頭山（登山道、奥三河名山八選）」、事業想定区域近傍には「鳴沢の滝（名勝、観光施設）」「旧菅守小学校（地域利用、農家レストラン）」等不特定多数が利用している施設が存在することから、これら施設の概況、利用形態等を把握し、事業の影響を予測すること。

12 苦情対応について

事業実施にあたり住民等から苦情や要望があった場合は、真摯に対応し、市の指導や助言に従うこと。

13 生態系に係る調査について

生態系について既存資料による調査だけでなく、工事着工前までに現地調査による確認をすること。風力発電稼働後も重要地点についての影響を確認すること。また、「生物多様性保全の鍵になる重要な地域」の略称「KBA」について略称のみと正式名称の併記が混在しているため、方法書以降においては統一すること。

14 動物について

竜頭山周辺はクマタカ、ヤマネ、モモンガの生息地となっている可能性があるため、影響を及ぼさないようにすること。また、三河湖周辺は県指定天然記念物のミカワサン

ショウウオの生息地であるため、工事及び資材搬入の道路建設の際には十分配慮し、影響を及ぼさないようにすること。

15 植物について

竜頭山周辺はブナが混成した広葉樹林が存在し、貴重であるため、事業実施による影響について配慮すること。

16 景観について

景観の保持に対する事業者の考えをまとめた上で、方法書の手続き前までに「新城市風力発電施設等の建設等に関するガイドライン」で求める四季、昼間及び夜間における景観の変化を視覚的な表現方法によって予測した合成図等を作成し関係者に説明すること。

17 景観資源、主要な眺望点について

景観資源、主要な眺望点の状況について「風力発電所の環境影響評価の実施に係る事例集（平成29年12月、環境影響評価審査の検証 風力発電所事例集 検討委員会）」P39, 40に記載のとおり「地域住民に親しまれている眺望点も含めて選定する必要がある」とのことから、事業想定区域に近接する公民館、集会所等の他、新城市の観光マップや他団体の発行する観光ガイド等についても調査すること。